

ICAS2011 だより (1)

日本分析化学会および国際純正・応用化学連合の主催で、2011年5月22日(日)～26日(木)、国立京都国際会館で開催されます ICAS2011 の準備進捗状況について、「ICAS2011 だより」として会員の皆様に、今後お知らせしていきたいと思っています。

IUPAC 2011 国際分析科学会議概要

- 1 会議名 和文名：IUPAC 2011 国際分析科学会議
 英文名：IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2011
 (略称：ICAS2011)
- 2 主催 協賛 社団法人日本分析化学会，国際純正・応用化学連合
 社団法人日本化学会分析化学ディビジョン，社団法人日本化学会，社団法人日本薬学会，社団法人日本生化学会，社団法人応用物理学会，社団法人計測自動制御学会，社団法人高分子学会，社団法人電気化学会，日本環境学会，日本質量分析学会，社団法人日本農芸化学会，クロマトグラフィ科学会，化学とマイクロ・ナノシステム研究会，日本電気泳動学会 (いずれも希望)
- 後援 京都市，科学技術振興機構，日本学術会議 (いずれも希望)
- 3 母体団体 国際純正・応用化学連合
 (IUPAC : International Union of Pure and Applied Chemistry)

- 4 開催時期 2011年5月22日(日)～5月26日(木) [5日間]
 [開催プログラム]

会議日程	午前	午後	夜
5月22日(日)		参加受付開始，市民公開講座	ウェルカムレセプション
5月23日(月)	プレナリーセッション，シンポジウム，展示	シンポジウム，パネルセッション，ポスターセッション，展示	
5月24日(火)	プレナリーセッション，シンポジウム，展示	シンポジウム，パネルセッション，ポスターセッション，展示	
5月25日(水)	シンポジウム，パネルセッション，展示	シンポジウム，パネルセッション，ポスターセッション，展示	バンケット
5月26日(木)	シンポジウム，パネルセッション，展示	シンポジウム，パネルセッション	

- 5 開催場所 国立京都国際会館
 (〒606-0001 京都府京都市左京区宝ヶ池 / TEL: 075-705-1234)

6 参加予定者数 44 カ国/2 地域・1,000 人（国外：300 人，国内：700 人）
 [その他同伴者：国外：20 人，国内：10 人]

日本国，中華人民共和国，中華民国（台湾），香港特別行政区，大韓民国，シンガポール共和国，タイ王国，ベトナム社会主義共和国，フィリピン共和国，バングラディッシュ人民共和国，インド，インドネシア共和国，イラン・イスラム共和国，オーストラリア，ニュー・ジーランド，アメリカ合衆国，カナダ，メキシコ合衆国，グレートブリテンおよび北部アイルランド連合王国，アイルランド，フランス共和国，ドイツ連邦共和国，オランダ王国，オーストリア共和国，ベルギー王国，スイス連邦，イタリア共和国，スウェーデン王国，フィンランド共和国，ノルウェー王国，デンマーク王国，ポーランド共和国，チェコ共和国，スロバキア共和国，ハンガリー共和国，ロシア連邦，グルジア共和国，ウクライナ，ベラルーシ共和国，サウジアラビア王国，トルコ共和国，スペイン，ポルトガル共和国，エジプト・アラブ共和国，ガーナ共和国，南アフリカ共和国
 以上，44 カ国/2 地域

7 開催状況 10 年 / 5 年ごと
 [過去開催状況]

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者数	備考
1991 年（第 1 回）	日本（幕張）	36 カ国	1,189	900	
2001 年（第 2 回）	日本（東京）	39 カ国	980	780	
2006 年（第 3 回）	ロシア（モスクワ）	30 カ国	950	30	
2011 年（第 4 回）	日本（京都）	44 カ国	1,000	700	予定

8 会議の意義・目的

我が国及び世界の分析科学の発展に寄与し，学問及び技術の進歩に貢献するとともに，全世界の研究者・技術者の交流と研究レベルの向上を図ることを目的とする。

9 会議開催の経緯と概要

- (1) IUPAC 2011 国際分析科学会議（ICAS2011）は，国際純正・応用化学連合（International Union of Pure and Applied Chemistry: IUPAC）が 10 年（第 2 回以後は 5 年）ごとに開催する会議であり，1991 年の第 1 回から当会議で通算 4 回を迎える全世界規模では唯一の分析科学に関する国際会議であり，2008 年 11 月の国際純正・応用化学連合（IUPAC）企画運営会議（Executive Committee）において，2011 国際分析科学会議を 2011 年 5 月に日本で開催することが決定された。これに先立ち，日本分析化学会は，日本開催準備のために，2011 国際分析科学会議組織委員会を 2008 年に設置し，開催の準備を始めていた。日本での開催は，通算第 2 回以来，10 年振り，3 回目の開催となり，この度の日本開催では，世界のトップレベルの研究者が一堂に会し，最新の研究成果について討論や発表が行われ，分析科学の発展とその応用展開を図ることを目的としている。
- (2) 分析科学は，化学のみならず薬学・医学・農学・生化学など極めて幅広い分野の基礎要素であり，これら多分野の進展にとって必要不可欠な学問領域である。特に現在では，ヒトゲノム解析計画や，地球温暖化防止計画の遂行，また安全・安心を形づくるための有害物質の除去・検出，癌治療薬の創成やゲノム創薬のための臨床情報取得，医療診断のための正確な情報提供など，われわれの実生活にとっても大きな関わりを持つに至っている。
- (3) この度の 2011 国際分析科学会議では，「人類の健康と福祉のための分析科学と技術の革新」を一つの柱とし，分析科学全般の基礎と応用について，幅広い見地から研究発表と討論が行われることとなっており，その成果は，分析科学の発展に大きく資するものと期待される。
- (4) この会議を日本で開催することは，すでに世界の最先端で活躍する我が国の分析科学者をさらに大きく世界の研究者にアピールし，同分野へのさらに多くの研究者の参画を促す絶好の機会となるとともに，我が国の同分野の研究者と海外の多くの研究者とが直接交流する機会が得られることとなり，我が国の分析科学に関する研究を一層発展させる契機となる。また，市民講座を開催すると共に，会議の成果をインターネット等を通じて広く一般に情報公開することにより，日本人科学者のもたらした成果に

ついて、社会に還元し、科学に関する一般社会の興味を大いに高めることが期待される。

10 会議構成

(1) プログラム・セッション

開会式、プレナリーセッション、シンポジウム、パラレルセッション、ポスターセッション、展示、市民公開講座。

(2) テーマ・主要題目

メインテーマ：「人類の健康と福祉のための分析科学と技術の革新」

主要題目：最先端機器分析（クロマトグラフィーと電気泳動，原子・分子分光法，化学ーバイオイメーキング，電気化学，マイクロ分析・マイクロ流体，質量分析，センサー，新規分離システム，X線分析），ナノ科学・ナノテクノロジー（ナノ粒子・ナノマテリアル，表面・界面分析），生物学・バイオ分析（バイオ分析，オミックス，薬学），環境科学（環境分析，地球化学分析），安全・安心・永續性（食物科学，法医学）

(3) 会議使用言語

英語（同時通訳：無し）

(4) 会議プロシーディングス

主に総説形式の論文を分析化学会論文誌 *Analytical Sciences* に掲載する。冊子体の配布は予定していないが、Webより制限なく閲覧できる。また、数編の論文をIUPAC発行の *Pure and Applied Chemistry* 誌に掲載する。

(5) 展示内容

企業展示： 学術雑誌出版各社，学術書出版各社。また，日本分析機器工業会の協力を得て，関連会社の展示を予定している。

学術展示： 科学技術振興機構「先端計測分析技術・機器開発事業」の成果。

11 会議における特筆すべき事項

国際分析科学会議 (ICAS) は日本分析化学会の提唱で始まった国際会議であり，分析化学の多くの分野で世界をリードする我が国の学術水準の高さを世界に知らしめる上で，非常に重要な役割を担っている。本会議に先立つ一般公開講演会では，ノーベル化学賞受賞者の下村 脩氏に講演をお願いする予定である。

IUPAC 2011 国際分析科学会議 (ICAS2011) [<http://www.icas2011.com/>]

期日：2011年5月22日（日）～26日（木）

会場：国立京都国際会館

講演申込締切：2010年9月30日（木）

※「ぶんせき」誌4月号『お知らせ』欄に概要掲載

第3回実行委員会〔2010年2月6日（土）〕を開催した。

- ・総務部会および公開講座担当部会を設置
→9部会（プログラム、財務・募金、広報、会場、展示、行事、出版、総務、公開講座）

- ・プログラム骨格を決定

Plenary Lectures

Prof. Yoshinobu Baba

"Nanobiodevices from single biomolecule and cell analysis to biomedical applications"

Prof. Takashi Kakiuchi

"Electroanalytical chemistry of ionic liquids: New bottles for new wine?"

Prof. Chad Mirkin

"The polyvalent gold nanoparticle conjugate: A new platform for vitro diagnostics and gene regulation"

Prof. Royce Murray

"What we know, and don't know, about contemporary nanoparticle analytical chemistry: a repeating story in Analytical Chemistry"

Prof. Alfredo Sanz-Medel

"Novel MS based analytical tools for isotopes and elements, for molecules and nanoparticles"

Symposium Sessions (※各セッションの Keynote Speakers はほぼ決定)

#Advanced Instrumental Analysis

Chromatography and Electrophoresis

Molecular Spectroscopy

Atomic Spectroscopy

Electrochemistry

Micro-analysis and Microfluidics

Mass Spectrometry

Sensor Systems

Novel Separation Systems

X-ray Analysis

#Nanoscience and Nanotechnology

Nanoparticles and Nanomaterials

Surface and Interface Analysis

#Biological and Bio-analysis

Bioanalysis

Biomolecular Imaging

Omics

Pharmaceutical Science

#Environmental Science

Environmental Analysis

Geochemical Analysis

#Safety, Security and Sustainability

Food Science

Forensics and Homeland Security

#JST Special Session

General Sessions (Oral and Poster)

A. Spectroscopy / Spectrometry

- Atomic

- Molecular
- Laser
- X-ray / Electron
- Magnetic Resonance
- Mass
- B. Separation / Flow / Micro Analysis (including new reagents and reactions)
 - Chromatography
 - Electromigration Analysis
 - Solvent / Solid Extraction
 - Flow Analysis
 - Micro Total Analysis
- C. Electroanalytical Chemistry
- D. Sensors
- E. Particle / Surface and Interface Analysis
- F. Nanomaterials and Nanotechnology
- G. Biological and Bio-analysis
- H. Pharmaceutical and Clinical Analysis
- I. Food Science and Analysis
- J. Environmental Analysis
- K. Geochemical Analysis
- L. Validation and Quality Assurance
- M. Education
- N. Miscellaneous

- 公開講座：2011年5月22日（日）に予定（Real Science*との共催）
 - *Real Science: NPO 法人「体験型科学教育研究所」（理事長：秋山 仁 氏）
 - 対象：中学～高校～一般
 - 会場：国立京都国際会館
 - 講演者（予定）：Prof. R. N. Zare, 下村 脩 先生, 秋山 仁 先生
 - ※ICAS2011 後、東京においても Real Science 主催で公開講座を開催（ICAS 協賛）

• 予算概略

[収入]

参加登録費	33,800,000	(有料入場者 750 人を想定)
展示広告	6,600,000	
寄附金	20,000,000	
財団、他団体等	4,000,000	
JSAC 国際交流事業基金	10,000,000	
<hr/>		
総計	74,400,000	

[参加登録費]

事前： 一般会員¥40,000; 一般非会員¥50,000;
海外一般¥40,000; 学生¥10,000.

当日： 一般会員¥50,000; 一般非会員¥60,000;
海外一般¥50,000; 学生¥15,000.

[Banquet 参加費]

(事前) ¥10,000; (当日) ¥12,000.

[支出]

事前準備	15,200,000	(印刷費, 演題・参加登録処理, 広報等)
当日運営	44,700,000	(会場費, 人件費, 飲食費, 招待者諸費用等)
事後処理	1,400,000	(報告書, 税務処理等)
事務	8,100,000	(各委員会経費, PCO 外注費, 事務経費等)
予備費	5,000,000	
<hr/>		
総計	74,400,000	

これまでの主な会議履歴

- 第1回実行委員会部会長会議 [2008年6月14日(土), リノホテル京都]
- 第1回実行委員会 [2008年7月26日(土), 京都大学桂キャンパス]
- 第2回実行委員会 [2008年8月23日(土), リノホテル京都]
- 第1回組織委員会 [2008年8月30日(土), 国立京都国際会館]
- 第1回縮小版実行委員会 [2009年4月4日(土), 京都大学桂キャンパス]
- 第2回縮小版実行委員会 [2009年6月13日(土), 京都大学桂キャンパス]
- 第1回プログラム部会世話人委員会・実行委員会 [2009年7月18日(土), 大阪大学豊中キャンパス]
- 第2回プログラム部会世話人委員会・実行委員会 [2009年8月21日(土), 大阪科学技術センター]
- 第3回プログラム部会世話人委員会・実行委員会 [2009年9月23日(水), 北海道大学]
- 第1回国内諮問委員会/第2回組織委員会合同会議 [2009年9月24日(木), 北海道大学]
- 第3回縮小版実行委員会 [2009年12月17日(木), 京都大学桂キャンパス]
- 第3回実行委員会 [2010年2月6日(土), リノホテル京都]

今後の予定

- 第4回実行委員会 [2010年5月22日(土)]
- 発表申込受付開始 [2010年7月1日(木)]
- 第5回実行委員会 [2010年8月21日(土)]
- 第3回組織委員会 [2010年9月16日(木), 分析化学会年会会場]
- 発表申込締切 [2010年9月30日(木)]
- 第6回実行委員会 [2010年11月27日(土)]
- プログラム(preliminary),
2nd Circular 公開 [2010年12月17日(金)]
- 第7回実行委員会 [2011年1月22日(土)]
- 第8回実行委員会 [2011年2月26日(土)]
- 事前参加登録締切 [2011年2月28日(月)]
- 第9回実行委員会 [2011年3月26日(土)]
- 最終プログラム確定 [2011年4月15日(金)]
- 第10回実行委員会 [2011年4月23日(土)]
- 第11回実行委員会 [2011年5月14日(土)]
- 第4回組織委員会 [2011年5月21日(土)]
- 公開講座 [2011年5月22日(日)]
- ICAS2011 [2011年5月22日(日)~26日(木)]

ICAS2011

組織委員会 委員長：寺部 茂
副委員長：垣内 隆, 服部重彦, 渡會 仁

事務局連絡先：

京都大学工学研究科材料化学専攻内 ICAS2011 事務局 大塚浩二
京都市西京区京都大学桂 (〒615-8510)
FAX: 075-383-2450; E-mail: ICAS2011_secretary@anchem.mc.kyoto-u.ac.jp

ICAS2011 組織委員会

委員 長	寺部 茂	
副委員 長	垣内 隆	(京大院工)
	渡會 仁	(阪大院理)
	服部 重彦	(島津製作所)
事務局 長	大塚 浩二	(京大院工)
事務局次長	中西 和樹	(京大院理)
組織委員	今坂 藤太郎	(九大院工)
	井村 久則	(金沢大院自然科学)
	大谷 肇	(名工大)
	尾崎 幸洋	(関西学院大理工)
	加納 健司	(京大院農)
	河合 潤	(京大院工)
	喜多村 昇	(北大院理)
	北森 武彦	(東大院工)
	木村 恵一	(和歌山大システム工)
	阿部 健一	(分析化学会本部事務局)
	紀本 岳志	(紀本電子工業㈱)
	楠 文代	(東京薬大薬)
	渋谷 雅美	(埼玉大院理工)
	鈴木 孝治	(慶應大理工)
	宗林 由樹	(京大化研)
	田中 隆司	(島津製作所)
	田中 秀治	(徳島大院ヘルスハイサイエンス)
	千葉 光一	(産総研)
	角田 欣一	(群馬大工)
	寺前 紀夫	(東北大院理)
	中井 泉	(東京理科大理)
	中島 憲一郎	(長崎大院医歯薬総合)
	萩中 淳	(武庫川女大薬)
	馬場 嘉信	(名大院工)
	古川 良知	(京都電子工業)
	升島 努	(広島大院医歯薬総合)
	宮原 裕二	(物材機構)
	我妻 和明	(東北大金材研)

ICAS2011 組織委員会 実行委員会名簿

	氏 名	役割分担	所 属
組織委員長	寺 部 茂		
副委員長	渡 會 仁	プログラム (正)	阪大院理
副委員長	垣 内 隆	実行委員会委員長	京大院工
副委員長	服 部 重彦	財務・募金 (正)	(株)島津製作所
	林 祐次	(服部氏代理)	日本分析機器工業会
事務局長	大 塚 浩二		京大院工
事務局次長	中 西 和樹	総務部会	京大院理
実行委員	北 森 武彦	財務・募金 (副)	東大院工
実行委員	萩 中 淳	広報	武庫川女大薬
実行委員	尾 崎 幸洋	プログラム (副)	関西学院大理工
実行委員	加 納 健司	プログラム (副)	京大院農
実行委員	河 合 潤	展示	京大院工
実行委員	宗 林 由樹	会場	京大化研
実行委員	木 村 恵一	財務・募金 (副)	和歌山大システム工
実行委員	紀 本 岳志	行事・Excursion	紀本電子工業(株)
実行委員	今 坂 藤太郎	出版	九大院工
実行委員	内 山 一美	公開講座	首都大東京
実行委員	阿 部 健一		分析化学会本部

ICAS2011 諮問委員会

国際諮問委員会

Hideo Akaiwa
 Ales Fajgelj
 Gary M. Hieftje
 Hasuck Kim
 Walter Lund
 Andreas Manz
 Royce W. Murray
 Boris F. Myasoedov
 Reinhard Niessner
 Tsuguo Sawada
 Erkang Wang
 Edward S. Yeung
 Richard N. Zare

国内諮問委員会

蟻川 芳子
 池田 篤治
 伊豆津 公佑
 梅澤 喜夫
 木原 壯林
 木村 優
 熊丸 尚宏
 小泉 英明
 合志 陽一
 瀬田 重敏
 柘植 新
 戸田 昭三

中川 照眞
 中原 武利
 中村 洋
 二瓶 好正
 長谷川 佑子
 原口 紘丞
 保母 敏行
 本水 昌二
 山崎 素直
 四ツ柳 隆夫
 (順不同)

